

第90回 経営協議会 議事要録

日 時 令和6年6月27日（木）13時30分～14時30分

場 所 大学本部棟第二会議室 及び オンライン

委 員 日比野克彦 学長【議長】、大塚直哉 理事・副学長（教育担当）、
清水泰博 理事・副学長（研究担当）、
君塚 剛 理事（総務・財務・施設担当）・事務局長、
中村政人 副学長（大学改革・渉外担当）、
熊倉純子 大学院国際芸術創造研究科長、
御立尚資 委員、吉本光宏 委員、
赤羽真紀子 委員*、岡田武史 委員*、高橋陽子 委員*、二宮雅也 委員*
*…委任状の提出あり

陪 席 上田良一 監事、武藤弘和 監事、国谷裕子 理事、
光井 渉 美術学部長、杉本和寛 音楽学部長、
桐山孝司 大学院映像研究科長、
黒川廣子 大学美術館長、大森晋輔 附属図書館長
河野文昭 演奏芸術センター長、今村有策 副学長（国際連携担当）、

欠 席 湯浅真奈美 委員、
麻生和子 理事【陪】、岡本美津子 副学長（デジタル推進担当）【陪】、
箭内道彦 学長特命（大学改革・ブランディング戦略担当）【陪】

議題

1. 令和5年度 中期目標・中期計画の進捗状況に係る自己点検・評価について
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
2. 令和6年度 機関別認証評価基準に基づく自己点検・評価について
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
3. 令和6年度 教育研究等に係るデータ分析による自己点検・評価について
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。

報告及び連絡事項

1. 令和5年度財務諸表について
標記のことについて、君塚理事から資料に基づき報告があった。
2. 令和5年度資金運用状況報告及び令和6年度資金運用計画について
標記のことについて、君塚理事から資料に基づき報告があった。

3. 本学の取組について

議長から、芸術文化における本学の近況について報告があった。

(本学の取り組み)

- 2024/3/25 令和5年度卒業・修了式—チャレンジャー
- 2024/4/1-5/7 Tシャツデザインのコンペティションを実施〈Z0Z0×東京藝大〉
- 2024/4/5 令和6度入学式—共に創る入学式ワークショップ2024—
- 2024/4/5 東京藝大とTBS、産学連携プロジェクトを始動～アートを中心とした新しい価値創造に挑戦いたします～
- 2024/4/11-6/11 美術愛住館「池口史子展」
- 2024/4/19 東京都、東京藝術大学、「有楽町アートアーバニズム」実行委員会の三者間で人材育成プログラムの実施に向けた連携協定を締結アートと社会を結ぶコーディネーター育成の取組を開始
- 2024/4/23 東京藝大×JR 東日本の包括連携プロジェクト第一弾上野駅「CREATIVE HUB UENO “es”」を開設
- 2024/4/24 東京医科歯科大学との研究マッチングイベント第2弾を実施
- 2024/5/9 盛山文部科学大臣が大学美術館「大吉原展」を視察
- 2024/5/13 空間拡張・アートコンペティション開催
- 2024/5/16 「東京藝術大学発ベンチャー」認定証授与式を行いました
- 2024/5/22 「藝祭2024実行委員会」がクラウドファンディングを開設

(主な意見等)

- 基本的には着実に進んでいると思うが、KPIをただ達成するのではなく、寄附金の獲得等については、体制の充実が伴わなければ着実に進めることができない。また、自己点検においては、達成に寄与した取組や、逆に未達成の要因となった不足事項等、実績に対する検証も併せて行ってほしい。また、他大学と同じ基準で比較したときに、芸術系大学という特性をどのように活かし、注力すべき取組の取捨選択も検討してみてほしい。
- 目標に達していない地方自治体や民間企業等との受託/共同事業・研究の実績については、受託事業等と呼び込み、着実に実勢し、成果を次に繋げる体制の検討が必要ではないか。
- 定員に満たしていない大学院の専攻について、キャリアパスとして大学院が選ばれにくい分野であることがあるのであれば、定員数の適正化が必要になってくるのではないか。
- シラバスについては、教員が作成・提出した後にチェックができる体制を敷くことができるか良いのではないか。
- 資金運用については、20年といった年限が長いものは必ずリスクがあるが、10億円規模を運用することに無理がある。どこまでリスクを取って運用するか検討する必要があるが、その場合、長期の資金計画が必要である。
- 基礎的な運営費交付金が減少していく中、収入を得る方策は必要である。営利を目的にするということではなく、自分たちが得意なことで必要な収入を得るということを教えていかないといけない時代になっているので、時間をかけてそのモデルを大学として試行していくということも良いと思うので、中期的な議論をしてみたい。

以上